

## 附属図書館提案の貴重資料等を活用した調査・研究テーマ

**【テーマ 1】加賀藩幕末期史料を用いた藩学等の研究**

附属図書館蔵書中の以下のような史料を活用した加賀藩での教育等に関する研究。

**●提案できる資料**

『成瀬正居日記』（四高蔵書、特別資料室）江戸時代末期の加賀藩士成瀬正居が天保 14 年（1843）満 15 歳から明治 34 年（1901）満 73 歳まで記した日記（内容は金沢大学デジタル・アーカイブで公開済）。原文に加え、翻刻された文章と合わせて読めるようになれば価値が増すと考えられます。⇒ [https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page\\_id=40017](https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=40017)

『まなびの日記』（用和堂文庫（特別資料室））加賀藩の礼法指南役を務めた渡辺家に伝えられた蔵書・用和堂文庫に含まれている渡辺弼の日記。幕末期に江戸で学んだ弼の小笠原家との約 20 年間の交流の記録が綴られています。その他、用和堂文庫には、小笠原流礼法の内容を伝える貴重な写本を多数所蔵しています。

⇒用和堂文庫目録 <https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp/records/41614>

**加賀藩校・明倫堂～明治初期の諸学校蔵書** 旧師範学校等の蔵書中には、加賀藩校・明倫堂～四高になる前の明治初期の諸学校時代の蔵書が残されています（ただし目録化されていません）。

**【テーマ 2】附属図書館所蔵の明治～昭和初期の国内雑誌を活用した研究**

附属図書館所蔵の明治～昭和初期に刊行された各種雑誌を活用した研究。学術的な雑誌に加え大衆雑誌も一部所蔵しています。

**●提案できる資料**

雑誌「キング」 日本出版史上初めて発行部数 100 万部を突破するなど、戦前期の日本で広く読まれた大衆娯楽雑誌。この雑誌についての本学のコレクションは国内でも最大級。

**【テーマ 3】前身校等所蔵古典籍をデジタル化し活用する研究**

前身校から継承している蔵書や暁烏文庫等の蔵書の中には、古典籍が多数含まれています。これらを OCR（光学的文字認識）など最先端技術の改良によってテキスト化し、様々な手法で分析する取り組み。

**●提案できる資料**

- 前身校等の蔵書には、手書き（くずし字等）による写本と木版等で印刷されている刊本が約 1 万点以上あります。
- OCR テキスト化については、以下のような形で国立国会図書館などでも実験的な取り組みを行っています。既存の研究を本学に応用する形も考えられます。

国立国会図書館での実験的取り組み [https://lab.ndl.go.jp/data\\_set/r4\\_koten/](https://lab.ndl.go.jp/data_set/r4_koten/)